

令和 4 年度 県立藤代高等学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生徒と誠実に向き合い 高い知性 たくましい気力 礼節を重んずる人間を育成する学校 みずからの力を信じ 社会の中の人間として たゆまず真理を求めることのできる人間を育成する学校 地域に信頼され、地域から日本・世界へ、グローバルな視野を持つ人間を育成する学校 				
昨年度の成果及び課題	重点項目	重点目標		達成状況	
<p>多くの生徒が国公立大学や難関私立大学を志望しているが、達成状況についてはまだ伸びしろを感じられるものである。学習への意識啓発及び主体的・対話的で深い学びを導く授業改善に取り組むとともに、進路実現のための組織的・系統的な進路指導を推進する。</p> <p>生徒はルール遵守を心がけている。より一層の規範意識の高揚と交通安全への理解を深め、基本的な生活習慣の確立・定着を推進する。</p> <p>生徒は部活動や学校行事に充実感を感じている。生徒の個性・自主性を認め、伸ばし、発揮させる活動を展開する。</p>	確かな学力の涵養	① 基礎基本の徹底と自主的・能動的な学習習慣の確立 ② 学習意欲を高める主体的・対話的で深い学びを意識した授業の改善 ③ 国際理解教育の充実と海外派遣プログラムの推進		B	
	一人一人に寄り沿った進路指導の充実	④ 進路実現のための組織的・系統的なキャリア教育の推進 ⑤ 的確な情報提供による主体的な進路選択能力の向上		B	
	豊かな心及び道徳的実践力の育成	⑥ 基本的な生活習慣の確立・定着 ⑦ 規範意識の高揚と自主的・自立的・自律的態度の育成 ⑧ 学校行事や生徒会活動、HR活動、部活動の充実		A	
	開かれた学校づくり	⑨ 教育活動の積極的な情報発信 ⑩ 保護者や地域の声等の情報収集と地域の教育力の活用		B	
	学校における働き方改革の推進	⑪ 勤務時間を意識した働き方の推進 ⑫ 学校業務の見直し		B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
(「三つのルール・ポリシー」)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 将来的に、地域を支える核となって活躍する、社会に貢献できる人財の育成		A	・地域との連携による「総合的な探究の時間」を一層充実させる。 ・生徒の進路結果から、さらに教育課程を検討する。 ・学校説明会や学校訪問等において、学校が期待する生徒像を明示する。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 取手市内の公立の進学校として、生徒の学習ニーズに対応した教育課程による、進路希望の実現		B	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 共通選抜と特色選抜を実施するなかで、自分の目標実現を目指し、日々努力する生徒		A	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	国語	第1学年 現代の国語の領域では特に論理的な文章の読解力・表現力をつける。 言語文化の領域では古文・漢文とも基本的事項を身につけさせるとともに、自宅学習の習慣化を図る。	現代の国語の領域では、なるべく多くの論理的・実践的な文章に触れさせて興味・関心を高めるとともに、読解の基本である語彙力(特に漢字力)をつけさせる。①②	A	・次年度は全学年がタブレットを所持することになるため、教科内で情報交換をしながらICTを活用した演習をより積極的に行っていきたい。新課程においては、自分の考えを文章にして表現する機会を増やしたいという課題が挙がった。ICTに絡めて実践できればと思う。学年を超えた引き継ぎや情報共有が活発に行われ、各学年の授業の改善に活かすことができたのは大変よかったと感じている。今後、新課程で不安も多いが、この強みを活かし生徒の学力向上に還元したい。
		授業を通して論理的な文章を読むための技術を理解させる。さらには自分の考えを文章にして正確に表現できるよう練習する機会を設ける。①②	B		
		言語文化については、まず理解のための基本事項である文語文法の知識を定着させる。補助プリント等を積極的に活用して、演習を通して理解徹底を図る。①②	A		
		漢文では特に基本的な句法を身につけさせる。そのための演習を、授業中の練習だけでなく家庭学習課題等、他の方法も活用しながら実施していく。①②	B		
		生徒が家庭で「国語」の学習に取り組めるよう、宿題を工夫する。①②	A		
	第2学年 現代文では近代以降の様々な文章を的確に理解し表現する力をつける。 古典では基本的な文法事項をさらに定着させ、読解力を高める。	現代文において、プリント学習等で漢字力・語彙力を高めると共に、評論問題を中心に読解力を高める。①②	B		
	古文において、用言・助動詞の文法事項の復習に加え、助詞・敬語を理解させ、読解力を高める。①②	A			
	漢文においては、読解力を高めるため語彙から句形を復習する。①②	A			
	第3学年 多様なものの見方・考え方を養う。 読解力、表現力を高めて受験に対応できる力を養う。	生徒の進路実現を考慮して、国語力向上に資する教材を精選し、生徒の実態に合わせた授業計画を立て、それに基づいた授業を行う。①②	A		
	古文・漢文については、理解のための基本事項である文語文法を再度復習し、基礎基本事項を徹底した上で、補助プリント等を積極的に活用しながら入試問題演習を実施し、受験に対応できる力を養う。①②	A			
教科指導	地理歴史	国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	世界の歴史への興味・関心をひきだすと同時に、世界史の基本的事項を理解させ、その上で現代の諸課題を多角的に考察させることにより、歴史的思考力を養成する。また、大学入試に適應できる学力を培うため、課外授業を積極的に行う。①②③④⑤	B	
		日本の歴史を、世界史的視野に立って総合的に理解させる。	我が国における様々な歴史的事象を、時間的・空間的な広がりの中で相互に関連付けて読み解いてゆく。また、最新の研究成果を取り入れながら個々の事象についての正確な理解をはかるとともに、日本の歴史の全体像を理解・把握できるよう十分に留意する。①②③④⑤	A	
		現代世界の地理的事象を考察し、地理的な見方や考え方を養う。	現代世界における地理的、地誌的な考察の上に立って、地理的な見方、考え方の基礎を身につけさせる。また、それらを応用することで現代の世界に生起する諸課題について、地理的に追及・考察する力の伸長を図る。①②③④⑤	B	
教科指導	公民	民主的・平和的な国家・社会の形成者たる公民を育成する。	具体的な事例を取り上げて、政治・経済に関わる諸事象をとらえるための基本となる概念や理論について学習させるとともに、現代の政治・経済の特質等の探究を通して現代社会の諸課題についての望ましい解決の在り方などを考察させる。また、自らの生き方をつねに省みて、現代の社会の中で主権者として生きる力を養わせる。①②③④⑤⑩	A	
教科指導	数学	学習の必要性を高める。	基本的な概念や原理、法則を理解し、数学のよさを認識することで学習に対する意義を持たせる。①②	A	
		進路実現のための授業の工夫	教科書にとどまらず、幅広い学習や副教材を通して、生徒の進路希望に応じた授業を臨機応変に展開する。⑤	A	
		主体的に学ぶ意識の向上	身につけた知識を活かし、問題が解ける喜びが得られるような授業展開とともに課題や演習を充実させる。①②	B	

別紙様式 2 (高)

教科指導	理科	生徒の自然に対する興味や関心および探究心を高める。	指導方法の創意工夫と改善に取り組み、生徒の学習意欲を高めるような授業展開に努める。特に、実験やデジタルコンテンツを効果的に取り入れた授業を充実させる。①②	B	B	・実験やデジタルコンテンツを効果的に取り入れた授業を充実させる。とりわけ、生徒用個人端末を用いた教材の開発に取り組みたい。
		自然科学的な自然観を身につけさせる。	探究の過程を通して、基本的概念や原理、法則を系統的に理解させる。①②	B		
		希望進路実現のため確かな学力を養成する。	自然の事物・現象について興味を持たせ、その基本原理を広くかつ深く理解させる。①②	B		
			放課後や長期休業日などを用い、進路に応じた課外授業を計画して、継続的に問題演習等を実施する。①②④	A		
教科指導	保健	個人、社会全体における健康・安全の知識・理解の定着を目指した指導の充実	ヘルスプロモーションの考え方に立ち、健康に対し、自ら考え・行動するための基礎となる適切な知識・情報の理解・習得を目指す。健康・安全に対する個人の意思決定や行動選択が正しく行われるための思考力・判断力の向上を目指した指導の工夫と改善に継続的に取り組む。①②⑦	A	A	・保健は個人の健康状態に対する意識を高め、適切な意思決定や行動選択ができるよう、社会状況や身近な事例を取り上げるなど教材研究を行う。 ・体力テストの評価がA・B判定の生徒を更に増やしていくために生徒の実態に応じた体力トレーニングを工夫する。 ・生涯スポーツに通じるため様々な種目を展開できるように年間計画を見直す。
		生涯を通じた自らの健康管理、改善の資質、能力の向上に資する指導の充実	健康・安全に関する知識を実生活の中で、正しい意思決定や行動選択に結びつけるために、個人及び社会生活の中で、活かしていけるような指導を目指す。具体的な事例等を多く取り扱うなど指導内容を幅広いものにし、交通講話、薬物講話、性に関する講話等との関連性を持たせた保健授業の工夫と改善の継続に努める。①②⑥⑦	B		
	体育	各運動の合理的実践を通じた技能、体力の向上に資する指導の充実	県民体操の継続的实践と持久走、フォークダンスを必修とし、選択制授業をバランスよく取り扱い、体力、運動能力の調和のとれた向上を図り、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力等の状態を確認し、授業の展開に活かしながら、個人及び集団の特性に応じた指導に継続的に取り組む。また、近年低下の傾向にある体力テストのスコアの向上を目指す。①②⑥⑦⑧	A		
		公正・協力・責任感等の育成、生涯体育への継続する指導の充実	体育委員のリーダー性の向上、一人一人に役割を持たせて自主性・責任感の涵養を図るなど「たくましく生きる力」の育成を目指す。選択制授業により生涯体育の基礎となる部活動の奨励と活発化を目指したマイスポーツの発見と技能の習得、各運動種目の持つ特性と楽しさに触れる体験をさせる指導の充実を目指す。新学習指導要領の内容を踏まえた指導を行う。①②⑥⑦⑧	B		
教科指導	芸術	生涯にわたり、芸術を愛好する心情と豊かな感性の育成	芸術の幅広い活動を通して、多面的・多角的に思考・判断し、表現力を養い、豊かな感性を育成する。①②	A	A	・コロナ禍での実施だったが、可能な範囲で幅広い活動や様々な分野の芸術に触れられるように授業をすることができた。来年はさらに、視野を広めていきたい。
			主体的・対話的で深い学びにつなげるために、課題の設定や活動の手立ての工夫・改善を行い、生徒の学習意欲を高める授業展開を目指す。①②	B		
		創造的な表現や鑑賞の能力の伸長、芸術文化についての理解の深化	表現と鑑賞の基本的な内容を習得できるよう、生徒の学習到達度の把握に努め、個に応じた指導を丁寧に行う。①②	A		
			我が国の伝統的な芸術に触れ、そのよさや美しさを味わうとともに、世界の様々な地域の芸術文化と関わらせることで、国際理解を深められるようにする。①②③	B		
教科指導	英語	自立的学習の定着	英単語・熟語や文法・語法等の小テストに併せて自立的な学習を促し、基礎学力の定着を図る。①②	A	A	・4技能をバランス良く育成する授業を実践し、英語コミュニケーション能力をより向上させる。
		実践的な読解力の養成	読解演習により内容理解力を高める。各種考査や課外等を通して多くの英文に触れる機会を設け、多読精読により長文の構成を把握し、深く理解する力を養う。①②③⑤	B		
		コミュニケーション能力の向上	授業中に英語での説明を聞いたり読んだりして理解し、スピーチやプレゼンテーション、ディベート等、英語で発信する能力を育成する。①②③⑤⑧	A		
		ライティング能力の向上	基礎的な文法知識を運用し、「書く」ことによって自分の考えや意見を表現する能力を伸ばす。こまめに添削・採点することで生徒一人一人の現状に合った指導を行う。①②③⑤⑧	A		
		効果的なALTの活用	ALTとJETとで常に話し合いを密にし、ALTの発話を補足・解説しながら英語の運用能力を高める。ALTと生徒が互いの文化について話し合い、理解を深め合うことができるよう促す。②③⑧	A		

別紙様式2 (高)

教科指導	家庭	自立して生きる力の習得	調理実習・被服実習などの体験的学習や、グループワークなどの主体的・対話的で深い学びを通して、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と技術の習得を図る。 ①②⑦	A	A	・体験的学習やグループワーク、ホームプロジェクトを実施し、知識・技能の習得を図れた。引き続き、生活情報の選択・活用する態度の育成に努める。
		課題解決能力の育成	ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動、課題レポートの実施を通して、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、生活の課題を解決する力を養う。 ①⑦⑨	B		
		協働して生活の充実向上を図る態度の育成	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 ②⑥⑧⑩	A		
教科指導	情報	コンピュータや情報通信ネットワーク等の基本的な活用能力を習得させる。	文書作成・表計算・プレゼンテーション・メール等の標準的なソフトウェアの操作を身につけさせる。 ①②④	A	B	・「情報デザイン」「プログラミング」「データ活用」等を活用し、「情報社会における問題の発見と解決」のためのスキルを身につける。
		情報化社会の仕組みを理解させ、そこで生活するために必要な知識を習得させる。また健全な倫理観を育成する。	情報通信ネットワーク等を通して情報の収集、選択、発信ができるようにする。 ①②⑤	B		
		情報化社会の仕組みを理解させ、そこで生活するために必要な知識を習得させる。また健全な倫理観を育成する。	コンピュータやプログラミング・情報通信ネットワークの仕組み及び社会との関わりについて理解させる。 ①②⑦	B		
		情報化社会の問題点を理解させる。	情報の発信者に求められる責任について理解させる。 ①②⑦	A		
		情報化社会において望まれるモラルやマナーを身につけさせる。	情報の発信者について理解させる。 ①②⑦	A		
教務		授業時間を確保し、基礎学力の定着と主体的・対話的で深い学びを意識した授業の改善を図る。	「チャイムと同時に授業開始」の厳守に努め、各学年・教科と連携し授業時間を確保する。 ①	A	B	・コロナ禍の中で、感染対策と学習効果を両立できる環境を整備し、適切な教育課程の編成・実施をしていくと同時に、公正な学習の最適化を目指して、今後ますますICT機器を取り入れた授業の推進に取り組んでいく必要がある。 ・主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に積極的に取り組む。 ・地域との連携に一層尽力し、開かれた学校づくりをめざす。
		「総合的な探究の時間」等を通して、よりよく課題を発見し解決していく力の育成を図る。	指導内容を再確認し、指導方法の研修等をとおして授業力の工夫・改善を目指す。 ①②	B		
		本校の魅力を地域に発信するとともに、地域と連携する。	新学習指導要領を見据えた教育課程や評価の改善に取り組む。 ①②	B		
		指導の目標を明確にし、行事の見直しやスリム化を進める。	SDGs等の課題から、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。 ①②③⑥⑦	A		
		指導の目標を明確にし、行事の見直しやスリム化を進める。	学校説明会・スクールガイド・進学フェア・学校公開授業等をとおして、中学生にとって魅力のある学校として本校を積極的にアピールしていく。 ⑨⑩	B		
		指導の目標を明確にし、行事の見直しやスリム化を進める。	学校ホームページをより一層充実させるとともに、藤代高校だより等を使って、随時本校の情報を発信していく。 ⑨⑩	A		
		指導の目標を明確にし、行事の見直しやスリム化を進める。	地域の力を取り入れた、開かれた学校づくりに寄与する取り組みを行う。 ⑤⑨⑩	A		
生徒指導		基本的生活習慣の確立	諸行事を能率的に企画・運営すると共に、各種行事の目的を明確にし、かけた時間に見合う教育上の効果を再検証する。 ⑧⑪⑫	B	B	・本来有する学力と進学指向に相応した規律と環境を維持できている一方で、時代に即した合理的な指導・支援のあり方に一層の共通理解を図る必要性がある。 ・交通関係では、危険な接触事故や、事故後の対応に不備なケースが見られ、緊張感を持った交通指導が必要である。
		人権・生命の尊重	行事の精選以外にも、ICT機器の活用や地域との連携強化などを推進して行く。 ⑩⑪⑫	B		
		いじめ対策	保護者と連携し、規則正しい生活の実践を指導する。特に学年との連絡を密にし遅刻者の減少に取り組む。 ⑥⑦	B		
		いじめ対策	教師、生徒が校外外で明るく挨拶を交わせるように指導する。 ⑥⑦	A		
		いじめ対策	服装・頭髪について各学年と連携し、共通理解のもとに指導する。 ⑥⑦	C		
		いじめ対策	交通安全について指導する。駐輪指導及び自転車のマナーについての指導を徹底する。交通事故(特に四輪車との接触)を減らす。 ⑥⑦	C		
		いじめ対策	薬物の危険についての啓発をする。 ⑥⑦	A		
いじめ対策	携帯電話のマナーについての指導を強化する。 ⑥⑦	B				
いじめ対策	未然防止のため、生徒の規範意識を高める指導をする。 ⑥⑦	A				
いじめ対策	早期発見のため、定期的な面談やアンケート調査を通して確認を行う。 ⑥⑦	A				
いじめ対策	早期解消のため、被害者の心のケアや加害者に対する指導など、初動で複合的な指導が可能となるようサポートする。 ⑥⑦	B				

別紙様式2 (高)

		保護者や警察、児童相談所等との連携を取り、効果的な解決方法の協力体制を整える。 ⑥⑦	A		・いじめ対策は、定期的な面談、調査を通じて、早期に指導・支援を行い、適切にコントロールすることを今後も継続する。
		職員研修会等で職員の共通理解を図り、事例研究などを通して実践的な指導方法の習得を図る。 ⑥⑦	B		
進路指導	的確な情報提供による生徒の主体的な進路選択能力の育成	「進路要覧」や「進路ニュース」を発行するとともに、各種講演会・大学説明会等を実施し、一人一人の生徒が主体的な進路選択ができるよう、適切な情報を提供する。 ⑤⑨	A	B	・次年度は令和6年度から始まる新教育課程入試の情報収集・提供に努めていきたい。
	生徒一人一人の進路実現のためのキャリア教育の推進	進路希望調査等を実施し、生徒一人一人の実態を把握するとともに問題点の検討とその改善策を講じて、学年の適切な進路学習をサポートする。 ⑤	B		
	確かな学力の定着の支援	一人一人の生徒が希望の進路を実現するために、保護者や地域の教育力を活かすことを含めたキャリア教育を実施する。 ④⑤⑩	A		
		一人一人の生徒が希望の進路を実現するために学習支援サービスを導入し、自主的・能動的な学習習慣の確立と基本的学習事項の習得を支援する体制をつくる。 ①⑤⑥	B		
保健厚生	基本的生活習慣の確立	知・徳・体の調和のとれた健康な人間として、きちんとした食事、最低限必要な睡眠、適度な運動、うがい・手洗い・消毒の励行による疾病の予防等、基本的生活習慣を確立する。 ⑥⑨	A	A	・感染症対策を実践し学習活動の場を、快適に保つことに努めた。心の問題を抱えた生徒に、SCと連携し継続的な観察とコミュニケーションが必要である。
	学習環境作り	教室内の照度検査・換気の実践、飲料水の検査、校舎内外の危険箇所を整備点検し、学習活動の場を快適に保持する。 ②⑨	A		
	環境教育の推進	毎日の清掃、ゴミの分別処理、資源の有効活用等、身近な問題から自然との共存を地球規模にまで発展させ、合わせて他を思いやる心を育成する。 ⑥⑦⑧	A		
特別活動	集団生活を通じて他人を思いやる心を育てる。	LHRを利用して集団の中の人間的な触れ合いを深め、社会性を高める。 ①②⑥⑦	A	A	・生徒会行事の円滑な運営と進化、生徒が主体的に取組む環境を醸成する。 ・社会の一員としての自覚をさらに高める。 ・1年生から進路意識を高める工夫が必要。様々な体験や学びを経験させる。
	「道徳」の時間と連携した教育の推進	生徒会行事（文化祭・体育祭など）や部活動への積極的な参加を促す。 ①④⑧⑨	A		
		LHRを活用して積極的に豊かな心の育成を図る。 ①②④⑤	A		
	進路意識の高揚	「道徳」の内容をさらに深められるようなLHRを工夫する。 ①②⑥⑦	A		
図書		キャリア・パスポートを活用し、自らのキャリア形成を図る。 ④⑤⑨⑩	A		
	読書の推進を図り、人間として感受性豊かな心を育てる。	読書指導の一環として、学校行事の中に「ビブリオトークの時間」を年2回設け、日頃本に接していない生徒にも本の世界を身近なものにする機会をつくり、生徒同士で本を紹介しながらコミュニケーション能力を育む。 ②⑦⑧	A	A	・図書館に新しいPCを導入するなどして図書委員の活動をもっと活発化させる。 ・スクールバスの利用や課外、部活動で放課後のカウンター当番をできない委員が多い現状がある。放課後の図書館利用方法を改善する。
		図書委員会の活動として、「藤棚」や「図書館報」を発行するなど、広報に努める。 ②④⑤⑨	A		
	本の拡充や館内の整備に努め、図書館の活用を促す。	スムーズな本の貸し出し・返却を行うことができるように図書委員を指導し、さらに各種研修会に参加することによってリーダー的な資質を持った図書委員を育成する。 ⑥⑦⑧⑩	A		
	生徒や職員の要望に応じて図書を充実させるとともに、教科の授業や探究学習にも利用しやすいように図書館の環境を整備し、来館者の増加に努める。 ①②⑤⑧	B			

別紙様式2 (高)

渉外	家庭、地域と連携し生徒の健全育成及び教育環境の整備に努める。	本校生徒指導部、近隣の高校PTAと連携し交通安全指導、校外指導を行う。 ⑥⑦⑫	B	B	・次年度もコロナの状況を見据えて、これまで以上にできる行事を確実に計画・実施していく。
		保護者の要望を取り入れた研修会(大学見学等)を計画実施する。 ⑤⑩	A		
		学校教育活動に対する保護者の理解・関心を高めるため、広報紙を充実させる。教務部情報係の協力を得、ホームページ等により保護者への連絡を密にする。 ⑨⑩	A		
国際教育推進室	国際交流の充実及び発展	オーストラリアの高校との交流プログラムを充実させて国際交流を深める。 ③⑧	A	A	・コロナ禍の国際教育のあり方を模索し、今年度よりグローバルリーダーシッププログラムを導入した。海外派遣の実施と併せて、藤代高校の柱となるようにしたい。
		外国人とグループディスカッションで交流を行い、他国の文化や英語の国際語としての地位を理解させ、英語学習の意欲を喚起する。 ②③⑧	A		
		海外からの短期や長期の留学生等との国際交流を深める。 ③⑧⑩	C		
	国際意識の高揚	インターナショナル・デイや、地球市民講座等への参加、第34回海外派遣などを実施し、国際意識を高める機会を設ける。 ③⑤⑧⑨	A		
国際教育委員会の活性化	藤朋祭での国際教育展示やインターナショナル・デイ、海外派遣生徒壮行会等の学校行事の企画や運営を通して、国際教育委員会の活性化を図る。 ③⑦⑧⑨	B			
スクールバス	スクールバスの利便性の向上	スクールバスの時刻管理や申込・変更・解約業務を滞りなく行う。また、スクールバスを生徒募集の一助とすると共に、バス停のルート変更等で新入生・在校生の利便性の向上を図る。 ⑨⑩	B	B	・利用者を増やすために、引き続き、利便性の向上に努める。
第1学年	確かな学力の涵養	「予習→授業→復習」の習慣化に努め、自主学習の定着を図る。 ①②	B	B	・早期から進路について主体的に考える支援を行いたい。 ・修学旅行などの学校行事をとおして、生徒同士の連帯感や社会性を育みたい。
		わかりやすく質の高い授業を展開し、受験に通用する学力の向上を図る。 ②④	B		
		課外授業や課題等を通して、基礎学力の定着及び学力の伸長に努める。 ①②	A		
	豊かな心及び道徳的実践力の育成	個別面談等を通して、一人一人の生徒理解に努める。 ①②④⑤	A		
		挨拶の励行と時間の厳守について、教育活動を通して指導していく。 ①⑥⑦⑧	B		
	教科外活動の推進	ホームルーム活動や道徳の授業等を通して、規範意識を高めさせる。 ⑥⑦⑧	B		
部活動や生徒会活動等への参加を促す。 ⑦⑧		B			
キャリア教育を実践し、生徒一人一人に将来への展望を持たせる。 ④⑤⑩		B			
第2学年	確かな学力の涵養	常に授業の重要性を訴え、予習・復習と共に高い集中力を持って授業に臨ませる。 ①②	B	B	・生徒が自らの進路希望を明確にし、進路実現に向けて着実に前進できるよう支援していく。
		個々の生徒の実態に対応できるような授業及び課外授業等を充実させる。 ①②⑪	A		
		週末課題や小テストを継続的に実施し、自発的な学習の習慣化を図る。 ①②	A		
	進路指導の充実	個人面談を適宜実施し、生徒一人一人の個に応じた適切な指導・助言を与える。 ①④⑤	A		
		オープンキャンパスに参加させ、進路意識の高揚を図り、自己目標を明確にさせる。 ④⑤	B		
	豊かな心及び道徳的実践力の育成	進路指導部との連携により、目標実現につながる情報を随時提供する。 ④⑤⑫	B		
服装容儀指導を徹底し、藤高生としてふさわしい自律的態度を育成する。 ⑥⑦		B			
ホームルーム活動や修学旅行等の学校行事を通して、思いやりの心を育てる。 ⑥⑦⑧		A			
国際交流等の活動を通して、グローバルな視野を育てる。 ③⑨⑩	B				
第3学年	確かな学力の涵養ならび自己教育力を育成する。	授業の重要性を訴え、予習・復習と共に高い集中力を持って授業に臨ませる。 ①②	B	A	・蒼藤館が今年度後半改修工事のために使用できなかったため、放課後は教室を自習室としたが、緊張感保つことが難しかった。
		生徒の現状を正確に把握し、授業や課外の内容を最適なものとする。 ①②	A		
		生徒一人一人が自主的・能動的な学習習慣を確立できるよう支援を惜しまない。 ①②	A		
	進路希望を実現する。	個別面談を頻繁に行い、生徒一人一人に明確な目標を持たせ学習意欲につなげる。 ①④⑤	A		
		生徒が学習に集中して取り組める雰囲気作りを努める。 ①②④⑤	A		
	豊かな心ならびに道徳的実践力を育成する。	進路指導部との連携により、目標実現につながる情報を随時提供する。 ④⑤	B		
藤代高校生としての誇りを持ち、礼節を重んじる態度を涵養する。 ①③⑥⑦⑧		A			
学校生活において規範意識と共に、自主性や他者を思いやる気持ちを高めさせる。 ③⑥⑦⑧		A			
規則正しい生活習慣を確立させ、心身の自己管理能力を向上させる。 ①⑥⑦⑧	B				

※評価基準 A：よくできた B：おおむねできた C：やや不十分 D：不十分